



利用促進や担い手確保など公共交通の課題を 根室市の公共交通を考える「市民意見交換会」が開催される

2月9日、根室市は公共交通における現状や課題などについて、市民と話し合う「市民意見交換会」を市総合文化会館で開催しました。市は新年度に「デマンド交通」の実証実験を行うことや通学費用はじめ18歳以下のバス等の無償化を検討していること等を説明しました。

根室市はバス・タクシー・鉄道等の公共交通を地域住民の大切な移動手段として維持し、より利用しやすい交通体系としていくために「地域公共交通計画」の策定に取り組んでいます。計画は今年度中に策定され、今後5年間の公共交通施策の基本になるものです。

現状の課題や要望などを話し合う市民との意見交換会は落石地区と歯舞地区で既に実施され、9日は市街地を対象に町会の役員など11名が参加。今後は厚床地区や高齢者、高校生、また小さな子どもがいる親等からも意見を聞く機会を予定しているそうです。

市が昨年実施したバスの乗降調査や公共交通のアンケート結果等を基に市内の公共交通の現状と課題についての報告がされました。

市内バスでは市街地域の路線は平均10名程度の乗車があるものの、厚床や納沙布など郊外の路線は利用者0人の便もあるそうです。

また落石地区など交通手段が困難な地域の課題や、そのほかに遠距離通学する学生の保護者から年間数十万円の経済的な負担が大きいとの声なども報告されました。そうした課題に対する今後の施策検討として、

- ◆落石地区の高校・病院バス直通バス運行による利便性向上実験
- ◆オンデマンド交通による市街地移動の利便性向上実験
- ◆18歳以下の公共交通無償化による利用促進
- ◆遠距離通学費の助成 等

を検討していることが示されました。

参加者からは、「バス路線によっては遠回りするため病院など目的地まで時間がかかる」、「花咲港地域では高台の方に公共施設(花咲港小・資料館・地域会館)が集まっているので、施設前を通るバスルートを実施してほしい」という意見。また昭和町の緑ヶ丘団地等では「バス停まで遠く高齢者は利用が困難であり、住宅地にバス路線を通すことが出来ないか」等の意見が出されてきました。

現状では狭い路地の住宅地では路線バスの運行が難しいそうです。そのため小型バス等を利用者が電話やスマホ等で予約し、家の近くから目的地まで乗り合いで運行する「デマンド交通」の導入実現が期待されています。

公共交通とその施策は「まちづくり」のための大切な土台です。

今回の市計画の策定を通じて市民との意見交換の機会が出来たこと。そして住民からの声と客観的なデータを基に、市と交通事業者等が多角的に検討しながら今後の施策展開に繋げていくための仕組みが作られつつあり、それがとても重要だと思いました。



2023ニムオロ冬の祭典

2月11日、3年ぶりに開催された「2023ニムオロ冬の祭典」。早い時間帯は雪もチラついていましたが、風もなく穏やかな気温のなか開催されました。ゴムボールを投げ合う四島取り雪合戦やテニスコート内での宝探しゲーム、友達や親子などがソリを交互に曳いて往復のタイムを競うスレドリレーなど、賑やかな子ども達の声が総合運動公園の特設会場に響いていました。



図書館カフェ

2月12日、根室市図書館で開催された「図書館カフェ」。前から気になっていたのですが、はじめて行けました。『大人の読み聞かせ』の時間には親子ふくめ20名ほどの方が参加。図書館ボランティアさんの淹れたコーヒーを頂き、司書さんの丁寧な語りによる絵本や紙芝居の「読み聞かせ」を拝聴しました。中でも『二平方メートルの世界で』の話は思わず泣きそうになりました。

司書さんが「インターネットが普及した時代で今後の図書館のあり方も問われているが、こうした機会や、実際に本を手にとって読むことも大切」という趣旨のお話をされていました。

北海道科学大学「まちかどキャンパスin根室」

2月5日、北海道科学大学による「まちかどキャンパスin根室」が市総合文化会館で開催されました。同大学が「大学の学びをまちかどで」をコンセプトに、道内各地で体験イベントや出前講義を行っているもので、根室市内では初めて開催されました。

根室市と同大学は2019年に「根室市における地域社会の発展と人材育成等に寄与すること」を目的とした「包括連携協定」を締結。この間はコロナ禍で思ったように事業を展開することが難しかったようですが、今年度も市立根室病院で看護学生の実習の受け入れ等が行われてきたそうです。

当日の会場では大学の先生や学生らが各体験ブースを開設。ストレッチ体験やテピング体験、そしてモニターに体の動きを表示しゲーム感覚でトレーニングする装置の体験など、参加した親子が楽しそうに体を動かしていました。

カラフルなバスボムを手作りする体験ブースは学生の指導のもと多くの子ども達を取り組み、当初に準備した材料で足りずに急遽買い出しに行くほど人気だったそうです。

そのほか午前と午後には大学の先生による「健康ミニ講座」が開かれ、こちらも会場いっぱいに参加されていました。

薬の添加剤の役割についての話、そして内臓を支える骨盤底筋の役割とそのトレーニング方法について実践を交えて講義され、それぞれ大変に分かりやすく、楽しく学ぶことが出来ました。

